

故郷へ再び謙虚な気持ち

毎年、元日には出雲大社へ行くことにしている。県外で生活をしてきた学生時代から、欠かさない習慣として行っている。

ある年の元日、関西方面から自動車で帰郷する際、出雲大社に直行したことがあった。米子道から山陰道へ。そして斐川インターチェンジで降りて出雲平野にさしかかる。

午前5時ごろのこと。見渡す眼



弁護士 高野 陽太郎さん



下一体に雲海が広がっていた。真っ白で、山が海に浮かぶ島々のように映った。息をのむような光景だった。あまりに美しい光景に、車を止めてしばらく眺めていた。

現代では、放射冷却による自然現象と説明ができるのだろうが、古代出雲の国の人々はこのような光景に神々を想起したのではないか。そのように感じていた。やたらと雨の日が多く、新幹線もなく外部から遮断されたかの

ようなこの山陰地方を、高校時代まであまり好きではなかった。しかし県外で10年ほど生活をし、改めてこちらに生活の本拠を置いてから、山陰の神秘的な空気を愛することができるようになった。

周囲を見渡せばどこからでも緑あふれる山を望むことができ、豊かな湖や田園も広がっている。何より、どこことなく古代からの歴史を継承している空気感があり、自然への畏れを感じることもできる。

自然への畏れを感じ、八百万の神に畏敬の念を抱くときの謙虚になれる感情を大事にしている。

その山陰で、街や人々のために、何か役に立ちたい。そう考えて3年前より松江の地で弁護士業務に就いている。

(弁護士 高野法律事務所)